

## アジア原子力協力フォーラム(FNCA) 第26回大臣級会合等の結果報告について

令和8年3月17日  
内閣府原子力政策担当室

1. 開催日時 : 令和7年11月27日(木) 10:00~17:50
2. 開催場所 : 三田共用会議所 国際会議室(ハイブリッド)
3. 主催 : 内閣府原子力委員会
4. 参加国等 : FNCA加盟国:オーストラリア※、バングラデシュ、インドネシア、日本、カザフスタン※、韓国※、マレーシア、モンゴル、フィリピン※、シンガポール、タイ、ベトナム (※:オンライン参加)  
(参加者リスト:添付1参照)
5. 議長 : 上坂 充 原子力委員会 委員長
6. 我が国の主な出席者 :
  - 小野田 紀美 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)
  - 上坂 充 原子力委員会 委員長
  - 直井 洋介 原子力委員会 委員
  - 吉橋 幸子 原子力委員会 委員
  - 恒藤 晃 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 審議官
  - 玉田 正男 FNCA日本コーディネーター
  - 和田 智明 FNCA日本アドバイザー
  - 森本 浩一 FNCA日本アドバイザー 他
7. プログラム:添付2参照
8. 議事概要:
  - (1)セッション1:開会

上坂委員長の開会宣言の後、小野田内閣府特命担当大臣(科学技術政策)の歓迎挨拶が行われた。小野田大臣は、各国に歓迎の意を伝えるとともに、これまでの加盟国代表によるリーダーシップへの敬意を表した。また、本日のテーマに即し実りある意見交換がなされること、1年間のFNCAの活動の振り返りをもとに、今後の活動について活発な議論が行われることへの期待が述べられた。最後に、ア

アジア地域の原子力科学・技術の発展と共有が、アジア地域および世界の発展に貢献していくことへの祈念が表された。

FNCA 加盟国の出席者(オンライン参加を含む)の挨拶・自己紹介の後、本会合のアジェンダ案が了承された。

## (2)セッション2:基調講演

セッション議長:上坂委員長の下、OECD/NEA マグウッド事務局長が「アジアにおける原子力エネルギーの役割」をテーマに基調講演を行った(ビデオメッセージ)。FNCA 加盟国の多くが新規参入国として原子力発電の導入を検討している状況を踏まえ、欧州で先行する活発な取り組みについて紹介した。第4世代炉、SMR の技術開発が世界規模で進んでいる状況およびその課題とリスク、人材開発や若者の原子力分野への関心喚起、人的投資の重要性等について説明した。

続いて、資源エネルギー庁 安良岡 悟 国際原子力協力推進室調整官が「新規参入国への協力」をテーマに基調講演を行った(上野 麻子 国際資源エネルギー戦略統括調整官の代理)。日本の原子力発電に関するこれまでの経緯と実績、現在の日本の原子力政策、また、電力需要の高まりとカーボンニュートラルの要求を背景とした投資の必要性等について述べられた。IAEA のアプローチ紹介、資金提供の必要性、原子力プロジェクトへの企業の協力、ステークホルダーとの協力の必要性等についても説明した。

## (3)セッション3:原子力技術全般に関する国別報告

セッション議長:ムハンマド・ラウィ・ビン・モハメド・ジン マレーシア科学技術革新省(MOSTI) マレーシア原子力庁長官の下、オーストラリア、バングラデシュ、カザフスタン、モンゴル、シンガポール、ベトナムの代表から、発電・非発電、両分野での原子力技術動向について、国別報告がなされた。モンゴルからは、政府の2024-2028年アクションプランの下、現在原子力法の改正、原子力庁の設立、原子力発電計画に関する基礎調査のための規制整備及び計画策定を担う NEPIO(原子力計画実施機関)の設立、ウラン生産の準備を実施していること等が報告された。今回の円卓会議の主題に沿って、バングラデシュ、カザフスタン、ベトナム等からは原子力発電所建設計画の状況についての説明があった。ベトナムからは、原子力発電所開発プロジェクトが2024年末に再開が承認され、最初に導入される技術としては出力100~160万kWe級の第3世代+(プラス)新型軽水炉を検討していること、加えてSMR技術は国の重点開発項目である11の戦略技術の一つに位置付けられていること等が報告された。

## (4)セッション4:原子力エネルギーの役割に焦点を当てた国別報告

セッション議長:マンライジャフ・ガンアジャフ モンゴル原子力委員会事務局長の下、マレーシア、フィリピン、日本、韓国の代表から、原子力エネルギーの役割に焦点を当てた国別報告がなされた。マレーシアからは、2050年までのカーボンニュートラル(NET-ZERO 2050)達成を目指しており、将来のベースロード電力需要に対

応し電力網の安定性を向上させるため潜在的な低炭素電源の選択肢として原子力エネルギーを検討していること、フィリピンからは、低炭素化社会の実現に向け SMR 等の原子力発電も選択肢から外せないとの現状報告があった。我が国は資源エネルギー庁 安良岡 悟 国際原子力協力推進室調整官より、①3E+S(エネルギーの安定供給、経済の効率性、環境への適用性)が安全性への重要な柱であること、②GX の基本戦略(2050 年までにカーボンニュートラルを実現)、③既存の原子力発電所の再稼働や、今後の次世代炉などの開発の必要性、④六ヶ所再処理工場の完成などバックエンドの開発推進の必要性、⑤資金調達的手段として官民連携の融資制度の検討、⑥原子力政策として SMR などの国際的なプロジェクトを展開している旨などについて報告を行った。

#### (5)セッション5:円卓会議

セッション議長:上坂委員長の下、今回の主題である「原子力エネルギーの役割」のテーマに沿って、タイおよびインドネシアが、それぞれのエネルギー政策や原子力発電導入に向けた計画についてリードスピーチを行った。その後、前セッションの国別報告とリードスピーチを踏まえ、議論が交わされた。議論では、特に、人材育成や人材確保の観点からの質疑が相次いだ。それらへの対応策として、①若い世代や女性に原子力分野に関心を持ってもらうためのアプローチ、②人材確保の面からの建設計画やプログラム立案の重要性、③経験国からの人材提供の可能性、④IAEA の教育訓練コースや、アジア諸国からの研修生を対象に日本で原子力分野の技術指導者を養成するコース(ITC:Instructor Training Course)などが紹介された。SMR などは製造後、船舶で輸送することも可能であり、島嶼部が多い国や、人材確保の観点からも優位性が言及された。一方、需要が大きく送電線設備が確立した地区では大規模発電設備が適しているとの意見もあり、国ごとに技術志向に差が見られた。オーストラリアを除き、今回参加した国には、低炭素電源の選択肢として温度差はあるものの原子力発電の重要性が認識されていることが確認され、この分野での情報交換を継続することを確認した。

#### (6)セッション6:FNCA 賞授賞式及び記念講演

セッション議長:コ・リナ シンガポール共和国環境庁(NEA)副長官 兼 気象サービス・放射線防護局局長の下、FNCA 賞の授賞式が行われた。現在推進されている FNCA の8つの研究プロジェクトの2024年度の活動のうち、顕著な成果が認められた研究活動が紹介、表彰された。初めに、事務局より FNCA 賞の概要説明と受賞者の発表(最優秀チーム賞1チーム、優秀チーム賞4チーム)が行われ、優秀チーム賞については研究業績紹介の後、オンライン出席した2チームの代表から謝辞が述べられた。続いて、最優秀チーム賞に選出されたベトナムの研究炉利用(RRU)プロジェクトのファム・タイン・ミン ベトナム原子力研究所(VINATOM)ダラット原子力研究所放射性同位体研究製造センター長・RRU 研究チーム代表に上坂委員長から賞状とトロフィーが授与され、ファム・タイン・ミン氏により、記念講演が行われた。

#### (7) セッション7: FNCA 活動報告と議論

セッション議長: モイヌル・イスラム バングラデシュ原子力委員会 (BAEC) 国際部部長の下、下記が報告された。

- 玉田FNCA日本コーディネーターより、令和7年2月に開催された第25回コーディネーター会合の概要を報告した。
- 事務局より、令和8年の会合スケジュールを報告した。また、合意されている2026年以降の大臣級会合の開催地と開催国について説明があり、次回の第27回大臣級会合は日本で、第28回大臣級会合は韓国で行われる旨、確認された。

#### (8) セッション8: 共同コミュニケ

セッション議長: 上坂委員長の下、今後のFNCAの活動の方向性等を記載した本会合の成果文書、共同コミュニケ案が説明された。

共同コミュニケ案には、①SMR等の次世代炉を含め、原子力発電に関する情報共有や、技術面での情報交換を進めること、そのために対面・オンラインでセミナーやワークショップを開催すること、②パブリックコミュニケーションに関するスタディパネルを2026年2月に開催すること、③プロジェクト活動を通じFNCAが加盟国の農業、工業、医療、環境等の分野に引き続き貢献していくこと等が明記された。

今回の共同コミュニケより、シンガポールが加盟国として追記された。また、本コミュニケには今回の大臣級会合の参加した国による合意と注記すること、オーストラリアは、本会合に参加し、今後もFNCAの活動に全面的に協力していくものの、国内の政治的立場から今回の共同コミュニケには参加しない旨が確認された。

会合終了後の加盟国の確認の後、文書が取りまとめられた(添付3(英語)及び添付4(日本語(仮訳))参照)。

#### (9) セッション9: 閉会

上坂委員長から出席者らへの謝辞等が述べられ、閉会した。

(以上)

(参考資料)

添付1:第26回大臣級会合 参加者リスト

添付2:第26回大臣級会合 プログラム

添付3:第26回大臣級会合 共同コミュニケ(英語版)

添付4:第26回大臣級会合 共同コミュニケ(日本語版(仮訳))

## The 26th Ministerial Level Meeting

## List of the Participants

\*Online Participants

No.	Country	Name		Title
1	Australia	Ms. Natascha Spark	*	Senior Manager, International Affairs Australian Nuclear Science & Technology Organisation (ANSTO)
2	Australia	Ms. Dan Nicholls	*	Senior Advisor, International Affairs, Australian Nuclear Science & Technology Organisation (ANSTO)
3	Australia	Mr. Andrew Popp	*	Head Preparedness Response and Collaboration and Radiation Safety, Australian Nuclear Science & Technology Organisation (ANSTO)
4	Australia	Mr. Mihail Lonescue	*	Research Leader, Nuclear Fuel Cycle, Australian Nuclear Science & Technology Organisation (ANSTO)
5	Australia	Mr. Prashant Maharaj	*	Radiological Emergency Manager, Australian Nuclear Science & Technology Organisation (ANSTO)
6	Bangladesh	Dr. M. Moinul Islam		Chief Scientific Officer and Director International Affairs Division Bangladesh Atomic Energy Commission
7	Indonesia	Prof. Anugerah Widiyanto		Acting Deputy Chairman for Development Policy, National Research and Innovation Agency (BRIN)
8	Indonesia	Mr. Dimas Irawan		Executive Director of International Nuclear Agency Indonesia, National Research and Innovation Agency (BRIN)
9	Kazakhstan	Dr. Timur Zhantikin	*	Deputy Chairman Agency of the Republic of Kazakhstan for Atomic Energy
10	Kazakhstan	Prof. Erlan Batyrbekov	*	General Director National Nuclear Center of the Republic of Kazakhstan
11	Kazakhstan	Dr. Vladimir Vityuk	*	Deputy Director General for Science National Nuclear Center of the Republic of Kazakhstan
12	Korea	Mr. Young Hooi Hwang	*	Director, Ministry of Science and ICT (MSIT)
13	Korea	Mr. Jaepyo HONG	*	Deputy Director Ministry of Science and ICT (MSIT)
14	Korea	Ms. Minyeon KIM	*	Head, Technical Cooperation Division, Global Cooperation Center, Korea Nuclear International Cooperation Foundation (KONICOF)
15	Korea	Ms. Hongbi DO	*	Researcher, Global Cooperation Center, Korea Nuclear International Cooperation Foundation (KONICOF)
16	Malaysia	Dr. Muhammad Rawi Bin Mohamed Zin		Director General Malaysian Nuclear Agency (Nuklear Malaysia), Ministry of Science, Technology and Innovation (MOSTI)
17	Malaysia	Ms. Siti Syarina Binti Mat Sali		Research Officer Planning and International Relations Division Malaysian Nuclear Agency (Nuklear Malaysia)

## The 26th Ministerial Level Meeting

## List of the Participants

\*Online Participants

No.	Country	Name	Title
18	Mongolia	Mr. Manlaijav GUNAAJAV	Secretary, Nuclear Energy Commission (NEC) of Mongolia
19	Mongolia	Mr. Chadraabal MAVAG	Head of the Nuclear Technology Department, Executive Office of the Nuclear Energy Commission (NEC) of Mongolia
20	Philippines	Mr. Neil Raymund Diaz Guillermo *	Supervising Science Research Specialist DOST-Philippine Nuclear Research Institute(PNRI)
21	Singapore	Ms. Koh Li-Na	Deputy Chief Executive Officer, Director-General Meteorological Services and Radiation Protection, National Environment Agency
22	Singapore	Mr. Tan Wei Han Gabriel	Executive Scientific Officer National Environment Agency
23	Thailand	Mr. Suphachai PATHUMNAKUL	Permanent Secretary of Higher Education, Science, Research and Innovation
24	Thailand	Assoc. Prof. Dr. Thawatchai ONJUN	Executive Director, Thailand Institute of Nuclear Technology (Public Organization)
25	Thailand	Dr. Nopporn POOLYARAT	Head of Nuclear Fusion and Plasma, Thailand Institute of Nuclear Technology (Public Organization)
26	Thailand	Ms. Tiraprapa RATANACHOTI	Plan and Policy Analyst, Senior Professional Level Ministry of Higher Education Science Research and Innovation
27	Thailand	Ms. Chatchawan MANSAITHONG	International Cooperation Officer, Thailand Institute of Nuclear Technology (Public Organization)
28	Vietnam	Dr. CAO Dong Vu	Director of NRI Vietnam Atomic Energy Institute – Nuclear Research Institute (NRI)
29	Vietnam	Dr. PHAM Thanh Minh	Representative of the RRU Research Team, Director, Center for Research and Production of Radioisotope, Nuclear Research Institute(NRI) Vietnam Atomic Energy Institute (VINATOM)
30	Vietnam	Ms. Tran Ngoc Hoan *	Deputy Director, Department of International Cooperation, Vietnam Atomic Energy Institute (VINATOM)
31	Vietnam	Ms. Pham Thanh Huong *	Official, Department of International Cooperation, Vietnam Atomic Energy Institute (VINATOM)
32	OECD/NEA	Mr. William D. Magwood, IV *	Director General, Department of Nuclear Sciences and Applications, IAEA
33	Japan	Ms. ONODA Kimi	Minister, CAO
34	Japan	Mr. TATEMATSU Shinya	Secretary to the Minister,CAO
35	Japan	Dr. TAMADA Masao	FNCA Coordinator Of Japan
36	Japan	Mr. WADA Tomoaki	FNCA Advisor of Japan

## The 26th Ministerial Level Meeting

## List of the Participants

\*Online Participants

No.	Country	Name	Title
37	Japan	Mr. MORIMOTO Koichi	FNCA Advisor of Japan
38	Japan	Ms. ABE Yukiko	Director for International Nuclear Cooperation, Research and Development Bureau, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)
39	Japan	Dr. IKEJIRI Satoshi *	Deputy Director, International Nuclear and Fusion Energy Affairs Division, Research and Development Bureau, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)
40	Japan	Mr. AOYAMA Yuichi *	Unit Chief, International Nuclear and Fusion Energy Affairs Division, Research and Development Bureau, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)
41	Japan	Mr. NAKAJIMA Shogo	Researcher, International Nuclear and Fusion Energy Affairs Division, Research and Development Bureau, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)
42	Japan	Mr. TANAKA Kenichiro * (PM)	Director, International Nuclear Cooperation Division, Disarmament, Non-Proliferation and Science Department, Ministry of Foreign Affairs (MOFA) of Japan
43	Japan	Mr. ITO Masaki * (PM)	Researcher, International Nuclear Cooperation Division, Disarmament, Non-Proliferation and Science Department, Ministry of Foreign Affairs (MOFA) of Japan
44	Japan	Ms. UENO Asako	Deputy Commissioner for International Affairs, Agency for Natural Resources and Energy Ministry of Economy, Trade and Industry (METI), Japan
45	Japan	Mr. YASURAOKA Satoru	Director for International Affairs at Nuclear Energy Policy Division, Agency for Natural Resources and Energy Ministry of Economy, Trade and Industry (METI), Japan
46	Japan	Mr. KAWAMURA Takayuki	Deputy Director, Office for International Nuclear Energy Cooperation, Nuclear Energy Policy Planning Division, Agency for Natural Resources and Energy
47	Japan	Mr. ABE Eimitsu *	Deputy Director, Office for International Nuclear Energy Cooperation, Nuclear Energy Policy Planning Division, Agency for Natural Resources and Energy
48	Japan	Dr. UESAKA Mitsuru	Chairman, Japan Atomic Energy Commission (JAEC)
49	Japan	Mr. NAOI Yosuke	Commissioner Japan Atomic Energy Commission (JAEC)
50	Japan	Dr. YOSHIHASHI Sachiko	Commissioner Japan Atomic Energy Commission (JAEC)
51	Japan	Dr. TSUNETO Akira	Deputy Director General for Science, Technology and Innovation Policy, Cabinet Office of Japan (CAO)
52	Japan	Dr. IDE Taro	Director for Atomic Energy and International Affairs Bureau of Science, Technology and Innovation Cabinet Office of Japan (CAO)
53	Japan	Mr. SHUZUI Yoshiyuki	Deputy-Director Office for Atomic Energy Policy Secretariat of the Atomic Energy Commission Cabinet Office of Japan (CAO)

## The 26th Ministerial Level Meeting

## List of the Participants

\*Online Participants

No.	Country	Name	Title
54	Japan	Ms. OTAGIRI Kayoko	Chief of International Affairs Section Secretariat of the Atomic Energy Commission Cabinet Office of Japan (CAO)
55	Japan	Mr. EGAWA Hirokazu	Technical Counsellor Office for Atomic Energy Policy Secretariat of the Atomic Energy Commission Cabinet Office of Japan (CAO)
56	Japan	Ms. KUROGI Rie	Senior Researcher Office for Atomic Energy Policy Secretariat of the Atomic Energy Commission Cabinet Office of Japan (CAO)
57	Japan	Dr. HAGIHARA Rika	Senior Researcher Office for Atomic Energy Policy Secretariat of the Atomic Energy Commission Cabinet Office of Japan (CAO)
58	Japan	Mr. NAKAMURA Kiyoshi	Senior Researcher Office for Atomic Energy Policy Secretariat of the Atomic Energy Commission Cabinet Office of Japan (CAO)
59	Japan	Ms. KOIZUMI Madoka	Director, International Affairs Department Japan Atomic Energy Agency (JAEA)
60	Kazakhstan	Mr. Pavel Krivitskiy *	National Nuclear Center of the Republic of Kazakhstan
61	Philippines	Dr. Charito T. Aranilla *	Philippine Nuclear Research Institute
62	Japan	Dr. NAGAI Haruyasu *	Deputy Director General Nuclear Science and Engineering Center Japan Atomic Energy Agency (JAEA)

**アジア原子力協力フォーラム (FNCA)**  
**第26回 大臣級会合 (MLM)**  
**アジェンダ【最終版】**

日 時 : 2025年11月27日(木) 10:00-17:50  
 場 所 : 三田共用会議所 国際会議室 (+Webex)  
 主 催 : 内閣府・原子力委員会  
 会議議長 : 上坂 充 原子力委員会委員長  
 使用言語 : 英 語

- |               |  |         |
|---------------|--|---------|
| 10:00 - 10:10 | 集合写真   | 【プレス公開】 |
| 10:10 - 10:40 | <b>セッション 1: 開会セッション (30分)</b><br>議長 : 上坂 充 原子力委員会委員長   | 【プレス公開】 |
|               | <ul style="list-style-type: none"> <li>- 開会宣言 (上坂 充 原子力委員会委員長)</li> <li>- 歓迎の挨拶 (小野田 紀美 内閣府特命担当大臣 (科学技術政策担当))</li> <li>- 参加者自己紹介</li> <li>- アジェンダ採択</li> </ul>   |         |
| 10:40-11:20   | <b>セッション 2: 基調講演 (40分)</b><br>議長 : 上坂 充 原子力委員会委員長  | 【プレス公開】 |
|               | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 「アジアにおける原子力エネルギーの役割」<br/>OECD/NEA マグウッド事務局長 &lt;ビデオメッセージ&gt;</li> <li>➢ 「新規参入国への協力」<br/>資源エネルギー庁 上野 麻子 国際資源エネルギー戦略<br/>統括調整官</li> </ul>   |         |
| 11:20-12:30   | <b>セッション 3: 原子力技術全般に関する各国動向報告と討議 (70分)</b><br>～ 発電、非発電、両分野での原子力技術動向国別報告 ～<br>議長 : マレーシア  |         |
|               | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ オーストラリア 国別報告 (10分)</li> <li>➢ バングラデシュ 国別報告 (10分)</li> <li>➢ カザフスタン 国別報告 (10分)</li> <li>➢ モンゴル 国別報告 (10分)</li> <li>➢ シンガポール 国別報告 (10分)</li> <li>➢ ベトナム 国別報告 (10分)</li> <li>➢ 討議 (10分)</li> </ul> |         |
| 12:30-13:30   | < 昼食休憩 > (60分)   |         |
| 13:30-14:30   | <b>セッション 4: 原子力エネルギーの役割に焦点を当てた国別報告 (60分)</b><br>議長 : モンゴル  |         |
|               | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ マレーシア 国別報告 (10分)</li> <li>➢ フィリピン 国別報告 (10分)</li> <li>➢ 日本 国別報告 (10分)</li> </ul>  |         |

	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 韓国 国別報告 (10分)</li> <li>➤ 討議 (20分)</li> </ul>	
14:30-15:30	<b>セッション 5: 円卓会議</b> (60分) 議長: 上坂 充 原子力委員会委員長 トピックス: 「Role of Nuclear Energy (原子力エネルギーの役割)」	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ リードスピーチ タイ (15分)</li> <li>➤ リードスピーチ インドネシア (15分)</li> <li>➤ 議論 (30分)</li> </ul>	
15:30-15:50	< コーヒー・ブレイク >	
15:50-16:30	<b>セッション 6: FNCA 賞</b> (40分) 議長: シンガポール	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ FNCA 賞概要および受賞チーム紹介</li> <li>➤ 最優秀研究チーム賞授賞式</li> <li>➤ 最優秀研究チーム賞記念講演</li> </ul>	
16:30-17:15	<b>セッション 7: FNCA の活動報告と議論</b> (45分) 議長: バングラデシュ	
	1) 第25回コーディネーター会合: プロジェクトの活動状況 (15分) 玉田 正男 FNCA 日本コーディネーター	
	2) 2026年FNCA会合予定 (15分) <ul style="list-style-type: none"> <li>a. Study Panel 2026 (SP)</li> <li>b. 第26回コーディネーター会合 (CDM)</li> <li>c. 上級行政官会合 (SOM)</li> <li>d. 第27回大臣級会合 (MLM)</li> </ul>	
	3) 2026年度以降のMLM開催地とホスト国 (15分)	
17:15-17:40	<b>セッション 8: ジョイント・コミュニケに関する議論</b> (25分) 議長: 上坂 充 原子力委員会委員長	
17:40-17:50	<b>セッション 9: 閉会セッション</b> (10分) 議長: 上坂 充 原子力委員会委員長 閉会の挨拶 (上坂 充 原子力委員会委員長)	
17:50	<b>散会</b>	
18:10 -	<レセプション>	

Forum for Nuclear Cooperation in Asia (FNCA)  
Joint Communiqué on the New Direction of the FNCA  
adopted at the 26th Ministerial Level Meeting (MLM26),  
November 27, 2025

We, the heads of delegation of countries participating in the FNCA MLM26: the People's Republic of Bangladesh, the Republic of Indonesia, Japan, the Republic of Kazakhstan, the Republic of Korea, Malaysia, Mongolia, the Republic of the Philippines, Republic of Singapore, the Kingdom of Thailand, and the Socialist Republic of Viet Nam,

Recalling that the FNCA's objective is to promote social and economic development through active regional partnerships for the peaceful and safe utilization of nuclear technology, and that research and development (R&D), knowledge, information sharing, and capacity building are, inter alia, the main roles and activities of the FNCA, which will lead to social and economic well-being of the member countries,

Acknowledging the potential of radiation technology and related FNCA projects in areas such as sustainable agricultural development; food safety; eco-friendly industrial development, radiation therapy, mitigation of the effects of climate change; and conservation of natural ecosystems,

Noting the potential value of nuclear energy, which can contribute to energy mix solutions, and to reducing and/or avoiding emissions of greenhouse gas,

Acknowledging the importance of securing required human resources in the nuclear science and technology fields, and radiation utilization field and the importance of succession of knowledge, including through promoting gender balance and gender equity, as well as attracting young generation/ diverse professionals,

Appreciating the progress of the FNCA project activities in agriculture, industry, medicine and environment, and commending the winners of the FNCA Awards for their outstanding achievements,

Recognizing the importance of cooperation with nuclear international/ intergovernmental organizations such as the IAEA, the OECD/NEA, and other relevant national/ international organizations, and we welcome the possibility of cooperation/ collaboration with these organizations,

We have decided to work towards:

1. Sustainable agriculture development and food safety, environmental protection, medical care and human health, nuclear safety and security culture

Continue to expand our activities in the application fields of nuclear science and technology and radiation utilization related to the development of sustainable agriculture and food safety, environmental protection, medicine, and the development of infrastructure for nuclear safety and conservation culture. In doing so, we will promote existing R&D fields, and with an eye to the future, proactively adopt R&D fields that are of broad interest to member countries and that contribute to sustainable development.

2. Cooperation in Human Resource Development (HRD) of the nuclear science and technology field, and radiation use

Depending on the needs and circumstances of each member country, we will hold face-to-face seminars and workshops, as well as webinars and online workshops, on initiatives related to systematic personnel exchange and enhancement of human resources infrastructure, so that we can promote information exchange. Diversity in participation, leadership and representation in FNCA projects and activities is important. We will seek to achieve equality in the nuclear science and technology field, including through promoting gender balance and age diversity in the workforces.

3. Spread of the R&D results

Encourage the member countries to facilitate uses of the outcomes of projects on mutation breeding, radiation processing, research reactor utilization, isotope production, neutron activation analysis, and those related to nuclear applications, by end-users, taking into account the possibility of their commercialization, which can more effectively contribute to the member countries' socio-economic well-being.

4. Information sharing on the nuclear power generation, including next-generation reactors such as SMRs

In accordance with the discussion at the roundtable discussions at the 2025 Ministerial Meeting, depending on the needs and circumstances of each member country, promote information exchange on the nuclear power generation (technical aspects such as development status on new

type reactors, safety, economic and policy aspects, and so on) by holding in-person seminars and workshops, webinars and online workshops, including Study Panel sessions.

#### 5. Other areas and activities to be promoted

Promote the activities prioritized by the member countries related to the applications of nuclear science and technology, particularly in sustainable agriculture development and food security, environment protection, medical care and human health, and infrastructure development for nuclear safety and security culture, by accelerating existing R&D areas and also by adopting possible future R&D areas of a wide spectrum of interests from the member countries to support their sustainable development.

#### 6. Expansion of public communication and public relations functions

Continuously work on building up public trust on nuclear science and technology in the member countries and the Asian region, and endeavour to expand public relations functions through FNCA website and open lectures held in the member countries. In line with the direction, we will hold the FNCA Study Panel "Public Information/Public Communication including Stakeholders Involvement (tentative title)" in Tokyo in February 2026 to share and discuss best practices from various countries.

#### 7. Enhancement of relationship with international/ intergovernmental organizations

Make efforts to further reinforce the relationships with relevant international/ intergovernmental organizations, including the IAEA, the OECD/NEA, in the areas where synergy effects can be expected between FNCA activities and theirs.

For example, explore a future collaboration between FNCA and the IAEA, which launched "Rays of Hope," expecting that the radiation therapy protocols established by the FNCA project can be widely utilized in the framework of "Rays of Hope."

**アジア原子力協力フォーラム(FNCA)**  
**第 26 回大臣級会合(MLM26)**  
**FNCAの活動方針に関する共同コミュニケ【仮訳】**  
**2025 年 11 月 27 日(於、東京)採択**

我々、FNCA MLM26 参加国であるバングラデシュ人民共和国、インドネシア共和国、日本、カザフスタン共和国、大韓民国、マレーシア、モンゴル国、フィリピン共和国、シンガポール共和国、タイ王国及びベトナム社会主義共和国の代表は、

積極的な地域のパートナーシップを通じて、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、地域の社会的・経済的発展を促進するとともに、加盟国の社会的・経済的充実に繋がる研究開発、知識と情報の共有及び能力の構築が、とりわけ FNCA の主要な役割と活動目的であることを想起し、

持続可能な農業開発、食品安全、環境に配慮した工業開発、放射線治療、気候変動の影響軽減、自然生態系の保全などの分野における放射線利用や関連する FNCA のプロジェクトの潜在的価値を認め、

エネルギーミックスに関する解決策や、温室効果ガスの排出削減および/又は回避に寄与し得る原子力エネルギーの潜在的な価値に留意し、

原子力科学技術分野及び放射線利用分野における必要な人材の確保の重要性、ジェンダーバランス及びジェンダー平等を促進すること並びに若年層/多様な専門家等を惹きつけることを通じて知識を継承することの重要性を認識し、

農業、産業、医療、環境分野における FNCA プロジェクト活動の進展を評価し、FNCA 賞受賞者の卓越した功績を称えらるとともに、

IAEA、OECD/NEA などの原子力関連国際機関・政府間機関、およびその他の関連する国内・国際機関との協力の重要性を認識し、これらの機関との協力・連携の可能性を歓迎する。

我々は次のことに向けて取り組むことを決定した：

1. 持続可能な農業開発と食品安全、環境保護、医療と健康、原子力安全とセキュリティ文化

持続可能な農業・食品安全、環境保護、医療、原子力安全・保全セキュリティの基盤整備に関連する原子力科学技術及び放射線利用の応用分野における活動を継続的に

拡大する。その過程で、既存の研究開発分野を推進するとともに、将来を見据え、加盟国が広く関心を持ち、持続可能な開発に貢献しうる研究開発分野を積極的に取り入れる。

## 2. 原子力科学技術分野および放射線利用における人材開発(HRD)の協力

各加盟国のニーズや状況に応じて、体系的な人材交流や人材インフラの強化に関する取組について、対面式のセミナーやワークショップ、ならびにウェビナーやオンラインワークショップを開催し、情報交換を促進する。FNCA のプロジェクトや活動への参加、リーダーシップ、代表の多様性は重要である。労働力のジェンダーバランスや年齢の多様性の促進などを通じて、原子力科学技術分野における平等性を実現することを目指す。

## 3. 研究開発成果の普及

加盟国に対し、放射線育種、放射線加工、研究炉利用、アイソトープ製造、中性子放射化分析及び原子力利用に関連するプロジェクトの成果について、その商業化の可能性を考慮しつつ、エンドユーザーによる利用を促進するよう奨励する。これにより加盟国の社会経済的福祉への貢献をより効果的に図ることができる。

## 4. 小型モジュール炉(SMR)などの次世代型原子炉を含む原子力発電に関する情報の共有

2025年大臣級会合における円卓会議での議論を踏まえ、各加盟国のニーズと状況に応じて、対面式セミナー・ワークショップ、ウェビナー・オンラインワークショップ(スタディパネルセッションを含む)を開催し、原子力発電(新型原子炉の開発状況、安全性、経済性、政策面などの技術的側面)に関する情報交換を促進する。

## 5. 推進すべきその他の分野及び活動

加盟国が優先する原子力科学技術の応用に関する活動を推進する。特に、持続可能な農業開発と食品安全、環境保護、医療と健康、原子力安全・セキュリティ文化のためのインフラ整備において、既存の研究開発分野を加速するとともに、加盟国の幅広い関心分野から将来の研究開発分野を採り入れることで、加盟国の持続可能な発展を支援する。

## 6. パブリック・コミュニケーション及び広報機能の拡充

加盟国及びアジア地域における原子力科学技術への公共の信頼構築を継続的に推進し、FNCA ウェブサイト及び加盟国で開催される公開講座を通じた広報機能の拡充に努める。この方針に沿い、2026年2月に東京にてFNCA スタディ・パネル「ステークホルダー参画を含む公共情報・公共コミュニケーション(仮称)」を開催し、各国のベストプラクティスを共有・議論する。

## 7. 国際機関・政府間機関との関係強化

FNCAの活動と相乗効果が期待できる分野において、IAEA、OECD/NEAを含む関連国際機関・政府間機関との関係をさらに強化するよう努める。

例えば、FNCAが構築した放射線治療プロトコルが「Rays of Hope」の枠組みで広く活用されることを期待し、「Rays of Hope」を立ち上げたIAEAとの将来的な連携の可能性を探る。